



〒520-0041 滋賀県大津市浜町1-3-8
滋賀銀行従業員組合
TEL 077-521-2775
FAX 077-525-5232
Mail info@sbu-ffs.com
URL http://sbu-ffs.com/

働くルールを確立して、 8時間働けば暮らせる社会に 全労連第29回定期大会

全労連第29回定期大会が7月26日から28日の3日間、東京で行われました。この定期大会では18、19年度の運動方針、組織拡大強化4か年計画の残り2年間の補強、会計報告と予算案などの議案が提案されました。18単産47地方組織から300人以上の代議員が参加され、当単組の中島委員長は金融労連の代議員として参加しました。台風の影響で一部日程が



安倍雇用破壊は許さない 「働かせ方改悪」は 職場に持ち込ませない

★あいさつした小田川議長は、この2年間の激動の情勢にさまざまな課題で全労連の加盟組織が役割を發揮してきたことを指摘しました。



働き方改革一括法の強行成立について「先の通常国会で、企業の働かせ方の自由を拡大し、生産性向上

また、目標の半分近くに到達している3千万人署名をやりきり、改憲発議を阻止しようと呼びかけました。中央最低賃金審議会による目安について、わずか26円の引き上げ（加重平均）では労働者の貧困は改善せず、地方間の格差が拡大すると批判し、これからの地方のたまたかいと同時に、全国最賃アクションプランにもとづく大幅引き上げと全国一律最賃制の実現の運動を強化しようと訴えました。

沖縄県知事選挙 「戦争する国づくり」 との真向からのたたかい

議長は、挨拶の最後に「これ以上の労働条件、暮らしの悪化、平和の危機を深刻化させないため、政治を変えることが必要だ。市民と野党の本気の共闘こそ、安倍一強政治を乗り越える力だ。市民と野党の共闘・連携の深まりに前向きに対応し、日常的な役割發揮をすすめよう。」

森みちさんのリードで 「原発はいらない」の 合唱が駅前に響く

とりわけ沖縄県知事選挙は、安倍政権の「戦争する国づくり」との真向からのたたかいだ。普天間基地撤去、オスプレイ撤去、辺野古新基地建設反対の建白書の実現の一致点でたたかい続けるオール沖縄の勝利を、全国の力で押し上げよう。」と述べられました。

最後に主婦の森みちさんのリードで「美しき5月のパリ」の替え歌「原発はいらない」を参加者全員が合唱しました。左の写真中段には、工事中の駅前で森さんと一緒に合唱する植木さんが写っています。毎回のようにつづいて参加されている田中さんと植木さんの姿がパレード中の写真（右）にもあります。

力あわせ原発ゼロの社会へ キンカン行動 第300回!

2012年7月から毎週金曜日に行われているキンカン行動

8月10日、第300回目となるキンカン行動が行われ120人以上の人が参加され、従組の先輩組合員も参加しました。

この行動は、全国に呼応して2012年7月から毎週金曜日に関西電力滋賀支店前などで「原発のない社会」を訴えて続けられてきたもので今回で300回目となります。

300回も続けてみんなの力で「原発ゼロ基本法」をつくらう

今回は、スタートの膳所駅前で6人の方からスピーチがされました。

民主青年同盟委員長長の岡田太貴さんは「300回も続けて、今ここでスピーチしていることがとても感慨深い。原発ゼロ基本法をみんなの力でつくりましょう」と話されました。

小泉元首相の話を聞く集いを開く、保守の方々とも国民的な運動を

原発を考えるびわ湖の会の野口宏さんは原発ゼロ法案の土台をつくった小泉元首相の話を聞く集いが10月6日に米原で行われる。

安全だと言われるのが、福井の原発事故を起こせば、琵琶湖、滋賀、関西一円が被害を



この日も関電の周りに「原発はいらない」「原発ゼロの日本へ」の幟が並びコールが響きました。

平和への「思い」八月 語られる「戦争と私」No.2

8月15日、310万人以上の日本国民と2000万人を超すアジアの国の人々を犠牲にしたアジア・太平洋戦争の73回目の終戦の日を迎えました。今、南北朝鮮の会談や米朝会談が行われるなど、朝鮮半島と東アジア地域で平和の激動が始まっています。また、昨年7月に国連で採択された核兵器禁止条約は、60カ国が署名し、14カ国が批准しています。わたしたちの国の政府は、この大きな平和への流れと異なる態度を取っています。

従業員組合は、このシリーズ再度企画し、先輩組合員のみなさまと共に考え、学び、不戦の誓いを新たにするものです。

戦争は全ての人を不幸に

国民に苦難を背負わせる

以外の何物でもない

寺田 登代子



まれですが、父が友禅関係の仕事をしていましたので京都の中京区に住んでいました。空襲警報が鳴ると集団下校をしたこと、夜は電灯に黒い布を急いでかぶせたこと、始終停電したこと、今でも飛行機の音には身体が反応してしまいます。戦況が厳しくなり、しばらくの間、母の実家であった富山県の山村に母と弟の3人で疎開していました。田舎と言っても食料不足で、野菜の入った雑炊の味は今も



今年は特別に暑い夏でした。暑さをもとめせず元気に外ではしゃぎまわる孫たちを見てみると、この町の平穏な日々を実感します。一方、米軍ヘリからの部品落下事故から半年目の新聞の見出しに「まるで戦争中のように。普天間第二小、避難380回」とありました。この余りの落差にこの国の危うさを感じています。

先年の戦争が終わったとき、私は6歳で国民学校1年生でした。両親とも北陸の生

ポーランド・アウシュヴィッツを訪ねて

植木 和美



日に隣組の方々が、徴用年齢を過ぎて出征しなかった父に「ひとかたならぬ世話になった」と手を合わせて下さいました。隣家にも夫を戦死させた幼児を抱え



今から3年前、戦後70年にヨーロッパや米国で移民や難民に対する非難の声が上がりはじめ、日本でも「ヘイトスピーチ」が目立つなか、テレビでアウシュビッツの収容所が取り上げられていて「戦後70年が過ぎ保存できないものもできている」と放映されていた

の人の願いです。子どもや孫のためにも頑張らなければと改めて決意しました。(澤井)

平和を守ることはすべての人の願い！

子どもや孫のためにも！

8月5日、「平和のための戦争展」が和邇の平和堂で志賀町平和委員会の主催で開催されていましたので参加しました。

戦争と基地をめぐる沖縄の歴史と今を知り考えるために、パネル展示とDVDが上映されました。沖縄戦では3人に1人が殺されました。

展示を見ながら、今日の新聞に載っていた、女優の吉永小百合さんが平和について話されたことをふと思い出しました。「平和はみんなですくつくつてゆくもの、ひとからもうるものでも、ただ待っているものでもありません」と柔らかく訴えておられました。

平和を守ることはすべて



た方もおられたようでした。また、戦後友達のお父さんがフリーピンから復員され



親大会連絡会の事務局の仕事をしています。今年は8月25日と26日に高知市で日本母親大会が開催されました。母親大会は「生命を生みだす母親は、生命を育て、生命を守ることをのみまます」のスローガンを掲げて、その時々々の課題で討論し行動を行います。今回の大会では「いのち、くらしまもれ」「核も基地もない平和な社会を」などをテーマに全国の運動が紹介されました。

たときの表情が、あまりに厳しかったのを今も覚えています。戦争は、全ての人たちを不幸にし、国民に苦難を背負わせる以外の何物でもないので。退職して以降、滋賀県母

いまの政権は、憲法を変えて戦争のできる国にしようとしています。子どもや孫たちに、何としても平和な日本を引き継げるよう、戦争を語り継ぎ9条を守る仕事を続けたいと思っています。

で私自身に記憶はないが、両親、祖父母は戦争に翻弄された。母の兄が戦地から帰ってすぐ亡くなり母が家を継ぐ事になった。困った祖父は妹の次男を婿養子として迎えたが、そのあとで父の兄が戦死し、実家も婿養子を迎える事となった。

大阪の呉服問屋で働いていた父は、親の決めたことに逆らえずやむなく辞めて農業を継いだ。30数年前、実父母も一緒に家族旅行で沖縄を旅し摩文仁の丘に行った。戦没者慰霊碑「近江の塔」には1600人超のお名前が刻まれているが、その中に父の兄の名を見つけた。いつまでも手を合わせていた父の横顔は忘れられない。

父も戦地で負傷し弾が足を貫通したが、命だけは助かり帰ってくれた。子や孫にこんな悲しい社会を残すことはできません。

摩文仁の丘「近江の塔」いつまでも手を合わせた父

清水 綾子



終戦の翌月に生まれたの



